

# 西尾市の障害福祉サービス提供時における危機管理ガイドライン

## 1 目的

このガイドライン（マニュアル）は、障害者（児）が利用する西尾市地域生活支援事業（移動支援事業・日中一時支援事業）の登録事業所の危機管理に資するものとする。

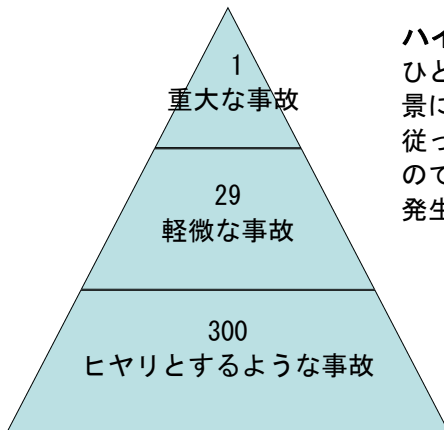
## 2 対象者

移動支援事業及び日中一時支援事業を利用する者

## 3 危機管理の考え方

中央労働災害防止協会が提唱している危険予知（キケンの K、ヨチの Y、トレーニングの T）の考え方と、労働災害における経験則のひとつであるハインリッヒの法則の考え方を元にする。

### ハインリッヒの法則



#### ハインリッヒの法則とは？

ひとつの重大事故の背景には、29の軽微な事故があり、その背景には300の異常が存在する。従って、重大な事故は、軽微な事故を防いでいれば発生しないものであり、軽微な事故はヒヤリとするような事故を防いでいれば発生しないという考え方である。

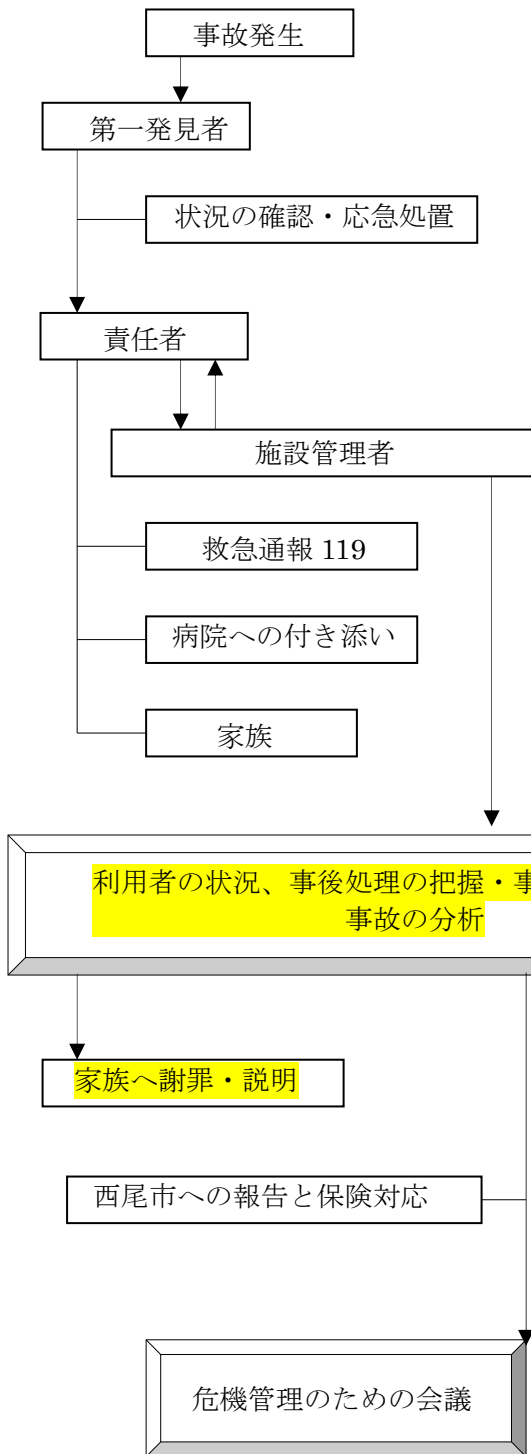
## 4 平常時の対応

事故の大小に拘わらず、事故の発生を未然に防ぐという意識を常に持ちながら、利用者の支援にあたる。そのためには、「目が届く、手が届く、声が届く」といった安全管理の意識が重要である。

- ①サービス等利用計画がある利用者については、計画の整合性を図り個別支援計画を作成する。
- ②個別支援計画については、その人の障害特性が明記され、支援者の変更があっても安全で安心できる同様の支援が受けられるような内容であること。（リスク管理のためのアセスメントシート参照）
- ③施設内、外での支援にかかわらず、当日の責任者及び有事の際の各支援者の役割分担を決めておくこと。
- ④特に、施設外支援の場合には以下の点について充分検討した上で実施計画を作成し、サービス管理責任者の同意の下で支援が行われること。
  - ア 施設外支援場所は、支援内容を考慮し適切な場所か（日時、場所）
  - イ 参加者の発達や障害特性が考慮された内容か
  - ウ 引率する集団の規模は適正で、それに見合った職員は配置がなされているか。
  - エ 引率責任者が明確であり、有事の際の役割を各支援員が理解しているか。有事の際の対応を考慮すると、事故対応職員1名、他の障害者の安全確保のための人員、連絡要員を含め、最低3名以上の支援員の配置が必要であり、引率集団によって支援員の人数を増やす。

- ⑤常に安全管理の意識を持ち、ヒヤリハットがあった場合には所定の報告書を作成し、施設全体の危機管理・安全管理の意識向上に努めること
- ⑥ヒヤリハット事例をまとめ、年間報告をし、組織の問題とすること（施設内）

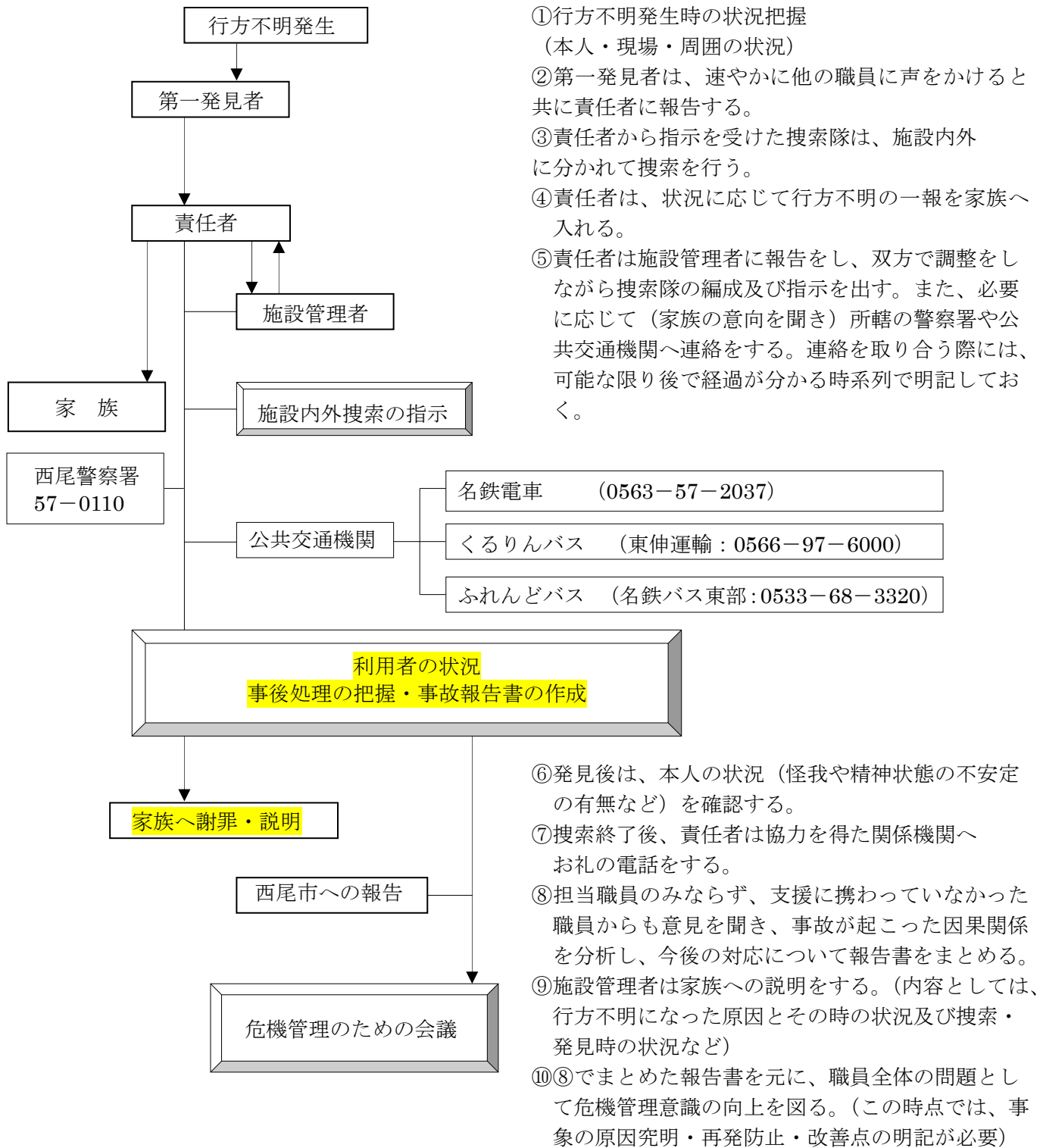
## 5 事故発生時の対応 ー対応フローチャートー (事業所内外での事故)



- ①事故の状況把握 (本人・現場・周囲の状況)
- ②第一発見者は本人の状況を把握し、適切な処置を行う
- ③第一発見者以外の者は、周囲にいる利用者の安全確保を行う (安全確保責任者を予め選定しておく)
- ④責任者は必要があれば、119番通報をすると同時に、施設管理者に事故の報告をする。(携帯電話にて第一報を入れる) 救急搬送が必要な場合は、第一発見者は救急車に同乗し、医療機関まで付き添う
- ⑤施設管理者は、必要な指示を責任者にする
- ⑥救急搬送された場合には、責任者は家族に連絡をする  
※状況に応じて、家族の来院をお願いする

- ⑦担当職員のみならず、支援に携わっていなかった職員からも意見を聞き、事故が起こった因果関係を分析し、今後の対応について報告書をまとめる。  
※西尾市へ報告書を提出する  
(西尾市障害者移動支援事業実施要綱第12条第4項による)  
※必要に応じ保険会社への報告も行う。
- ⑧家族への報告は、誠意をもって事故の内容・程度・受診時の内容・今後の通院等を含めた内容を主なものとする。(日時を置かず、すみやかに対応し、責任を暗示するようなことや他害者及び他の利用者のことは言及しない)
- ⑨⑦でまとめた報告書を元に、職員全体の問題として危機管理意識の向上を図る。(この時点では、事象の原因究明・再発防止・改善点の明記が必要)

## 6 行方不明者発生時の対応 ー対応フローチャートー



### \*\*参考\*\*

行方不明者を捜索する方法のひとつとして、防災無線がある。これを利用するには、家族が捜索願を西尾署に出し、放送の是非について警察署と家族の双方で協議する。その結果、放送が必要であれば、警察署から西尾市危機管理課へ連絡をし、放送となる。

# ヒヤリハット報告書

部署名 \_\_\_\_\_

利用者氏名 \_\_\_\_\_

管理者 \_\_\_\_\_ (印)

## 【概要】

いつ	令和 年 月 日 ( 曜日) 午前・午後 時 分頃
どこで	どうして いた時
ヒヤリとした時、ハッとした時のあらし	

## 【原因】

環境に問題があった	設備・機器等に問題があった	作業方法・支援方法に問題があった	自分自身に問題があった



## 【教訓・対策】

--

以下の番号に○をつけてください。

- 1 よく見え (聞え) なかった
- 2 気が付かなかった
- 3 忘れていた
- 4 知らなかった
- 5 深く考えなかった
- 6 大丈夫だと思った
- 7 あわてていた
- 8 不愉快なことがあった
- 9 疲れていた
- 10 無意識に手が動いた
- 11 やりにくかった  
(難しかった)
- 12 体のバランスを崩した
- 13 その他 ( )

No	ふりがな 氏名(性別) ( 歳)	障害に関する特徴	苦手な環境	具体的な対処方法
1 例	にしおたろう 西尾 太郎(男) (17歳)	①強いこだわり ②大きな音が苦手 ③てんかん発作	急な環境(日課)の変化	①日課の変更がある場合には、予め説明する。 ②状況によってはイヤーマフを使う。 ③預かっているダイアップ坐薬10mg.を肛門に挿入し、119番通報をする。

